

第 22 回 議会改革特別委員会

開催日 平成 24 年 9 月 20 日（木曜日）

出席委員 委員長：鈴木和彦 副委員長：望月厚司

委員：松谷 清 鈴木節子 早川清文 繁田和三 山根田鶴子 尾崎剛司  
遠藤広樹 三浦雅司 遠藤裕孝 佐野慶子 白鳥 実 近藤光男  
栗田知明 片平博文 剣持邦昭 沢入育男

その他の出席者 議長：石上顕太郎 副議長：田中敬五

議題

○ 前回の確認等

〈協議〉

1 議員定数について

資料 1～4

2 次回の開催日

第 23 回 平成 24 年 10 月 9 日（火）午前 10 時～

会場 第 2 委員会室

3 今後の委員会開催日

第 24 回 平成 24 年 10 月 22 日（月）午前 10 時～

第 25 回 平成 24 年 11 月 2 日（金）午前 10 時～

---

主な意見など

1 議員定数について

○自民党

- ・平成 15 年の合併後、78 人いた議員を 53 人にし、25 人減らした。
- ・平成 17 年の政令指定都市移行により、国、県からの権限、財源の移譲など、地方分権の先導的な役割を果たしている。
- ・自民党は定数削減の方向であるが、現時点で会派にもいろいろな意見がある。
- ・次回、市民から理解していただけるものを示したい。

○新政会

- ・会派では、議員定数削減と、議会の役割・活動の重要性が高まっているとする、意見がある。
- ・総合的な判断として、定数削減の必要があると認識している。具体的な数は出ていない。

○公明党

- ・財政規模、人口、面積、地域性、合併の経緯と関係計画の進捗状況などを勘案しながら、地域の意見を取り入れていく体制を維持していかなければならない。
- ・議会の監視機能、政策形成機能の強化が必要。定数を減らせばいいということではなく、

議員の質を高めていくことが重要。

- ・現状 49 人であることも勘案し、定数の結論を導き出していかなければならない。

○共産党

- ・議会の役割は、行政の監視・チェック機能、住民意見の反映、積極的な提案があり、この役割を果たし、充実させることが必要。議員を減らすと、住民の意思が反映できなくなり、行政の監視機能が低下する。
- ・人口だけでなく、地域性、経済状況も勘案し、総合的な議論が必要だ。
- ・定数削減はすべきでない。

○静友クラブ

- ・議員の役割について、しっかりした考えを持たなければならない。
- ・議員の資質向上もある。議員定数と資質をすりかえて議論することはいかがか。
- ・自治会連合会の言う浜松市並みというの、1つの基準として検討する必要がある。
- ・基本的には政令市の中で、人口がどういう位置になっているかが大切。

○虹と緑

- ・議員定数は現状でいい。
- ・72万人の静岡市に何人の議員が必要かというテーマで議論すべき。
- ・人口比は目安としてわかりやすいが、財政の問題なら報酬を下げることもある。
- ・議員は少数意見の代弁者として、もっと多くいてもいい。
- ・県政との関係で、政令市には権限、財源が増えている。県議会議員の仕事と定数、市議会議員の定数を比較して議論しなければならない。
- ・連合自治会とも対話をしたい。

○市民自治福祉クラブ

- ・議会改革は、定数問題になって初めて現実化するというのが世相だと思う。
- ・静岡型政令市の特徴、独自性を共通認識としてとらえる必要がある。
- ・静岡市が行っていることを有権者に表明することが市議会の役割だ。
- ・さまざまな意見を闘わせていくため、たくさんの方がいた方がいい。
- ・削減しないという意見だ。

○市民クラブ

- ・議会は市民や当局に対して、もっと真剣に議論できるような場を持つことが重要だ。
- ・数の問題は大変難しいが、ある一定の減はせざるを得ないだろう。

○清庵クラブ

- ・大切なのは質の向上にある。自治会連合会からの要望も重い。要望に即して減を考えていかざるを得ない。